

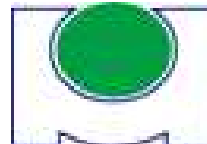
校長室から

令和4年度校長室だより 第2号

令和4(2022)年4月13日発行

文責 宮城県宮城野高等学校

校長 佐藤 誠



先週4月8日(金)に新学期がスタートしたものの、すぐに土日を含んだため、実質的なスタートは今週11日(月)からでしょうか。このところ天気も快晴で、気温も20度を超える日もあり、春を飛び越えて初夏のような陽気となっています。昨日から始まった新入生のオリエンテーションも、様々なメニューで進められていますが、参加している生徒諸君にとっては着いていくので一杯かも知れませんね。

一昨日「校長室だより」第1号を発行し、入学式「式辞」を掲載しましたが、8日(金)は午前中に転入職員の新任式と在校生の始業式を行っており、順序が逆にはなりましたが、始業式で在校生諸君にお話しした「式辞」を、この第2号に掲載させていただくことにします。一読いただきたいと思います。

令和4年度 始業式 式 辞

改めまして、皆さんおはようございます。校長の佐藤誠です。始業式にあたり、2つ、お話ししたいと思います。

一つ目は、宮城野高校の学校改革についてです。

令和4年度が始まり、宮城野高校の新しい時代がスタートしました。今年度の入学生から、美術科と普通科の2学科・6クラス体制となります。そして、これまでのFTとPSを再編成した「未来構想ゼミナール」の中で、全ての学科で、年次をまたがった探究活動を展開していくことになります。3年次の皆さんは、これまで同様の探究活動FTⅢとPSに取り組めますが、2年次の皆さんは前期で「プレ・ゼミナール」に取り組む、後期からは今日入学する1年次生と共に「ゼミナール」の探究活動に取り組むことになるのです。

このような、年次を越えた、系統別に細分化した探究活動を実施している高校は、県内には他にありません。いわば、生徒の皆さんはもちろん、先生方も、未知の領域に踏み出していくことになるのです。もしかしたら、活動がうまく進まないことがあるかも知れません。ですが、そういった挫折や失敗からこそ、多くの学びがあるはず。その学びが、次の成功に導いてくれるに違いありません。しっかりと目標設定をして取り組み、得られた結果をしっかりと分析して評価をすれば、成功・失敗どちらにしても、大きな学びが得られるというものです。「失敗は成功の元」と言いますが、「成功も成功の元」です。

2つめは、進路についてです。

卒業した25回生は、国公立大学への現役合格者が90名となりました。これは、開校以来、2番目に多い合格者数となります。大学入試改革やコロナ対応など、多くの不確定要素がある中で受験に挑んだ先輩たちが、このような成果を残してくれたことは、宮城野高校にとって大きな誇りだと考えています。

それだけの成果が出た要因として、受験生であった先輩たち一人ひとりが、自分の目標に向かって最大限の努力を積み重ねたことが最も大きいことは言うまでもありません。しかし、それ以外にも、受験生である3年次の生徒諸君を励ましつつ、それぞれの希望進路を達成するための支援と指導を重ねた、先生方の努力も大きかったと考えています。

さて、次はここにいる生徒の皆さんの番です。3年次の生徒の皆さんは、受験本番までの日数が残り1年を切りました。今から本格始動できる準備はできていますか。受験業界では、2年生の冬場、1月から3月までの3ヶ月間を、受験に向けた3年生スタートのための「0学期」として見えています。新学期からスタートダッシュするための準備期間という位置づけです。

すでに、準備はできているという人は、これからどんどん先へ進んでください。まだ準備できているほどではない、あるいは全く何もできていない、という人は、もう一度自分のスケジュールを見つめ直して、取組を始めてください。前にもお話ししたことがありますが、スポーツや芸術活動と同じく、勉強は自分自身がやった分、取り組んだ分しか自分の身につきません。トレーニングや練習せずに、大会・コンクールでの入賞などありません。自分の活動は、自分自身のためにこなすものです。言い訳したり、見ないふりをしても、いずれ望ぶような結果には結びつきません。やる時はやる、気持ちを整理して、これからの取組を進めてください。

昨年の3年次主任の先生が、「受験は団体戦」とコメントしました。最終的には、生徒の皆さん一人ひとりがどのように取り組むかにかかっているのですが、でも孤独な戦いは辛いものです。隣に、周りに、同じように取り組む仲間がいて、いつも見てくれる、声をかけてくれる先生方がいる、そんな一丸となった取組が、きっと大きな成果を引き寄せたのだと思います。

ぜひ、2年次・3年次の生徒の皆さんも、受験だけでなく、学校行事やHR活動など、ぜひみんなで取り組む姿勢を大切にしてください。

最後に、午後には新入生が入学します。2年次・3年次の生徒の皆さんは、宮城野高校生のよき模範となるよう、よろしくお願いします。

また、コロナの感染はまだまだ収まりそうにありませんが、その中でも、充実した学校生活を送れるよう、感染予防には十分に注意を払い、過ごして欲しいと思います。以上、令和4年度のスタートに当たり、始業式の式辞といたします。

令和4年4月8日

宮城県宮城野高等学校長 佐藤 誠

離任式に続き、始業式でも2・3年次の生徒の皆さんで校歌を合唱することができました。まだまだ声出しが必要などありますが、ともかくも校歌を合唱できたことは良かったと思います。これから放送ボランティアによる昼の校内放送が始まったら、時々校歌を流してもらおうかと考えています。

◇宮城野高校の生徒企画行事「体育祭」・「文化祭」とは何か?!

さて、昨日12日午後に在校生による「新入生オリエンテーション」が行われ、生徒が企画し実施・運営する、生徒企画体育的行事の「体育祭」については「体育祭ボランティア（通称：体ボラ）」代表から、同じく生徒企画文化的行事の「文化祭」は「文化祭ボランティア（通称：文ボラ）」代表から、それぞれ紹介がありました。でも、どういう中身がよく分からない、と感じている新入生1年次の生徒の皆さんも多いかも知れないと思い、この「校長室だより」を使って、少し補足の紹介をすることにします。

特に、「新入生オリエンテーション」では、体ボラ代表からは口頭の説明だけで映像紹介などがなかったもので、来月に開催が迫っている「体育祭」がどんな行事なのかを、イメージすることが難しいかも知れません。その助けになる材料の一つは、学校の公式HPです。スマホとパソコンでは、画面上の見え方が異なるかも知れませんが、トップページの「学科改編」紹介の下に、昨年度令和3年度の学校行事の紹介があり、そこに文化祭『宮城野祭'21～災い転じて福となせ～』と、体育祭『コロナで体育祭ができない？ それってあなたの感想ですよ？』の様子が、ごく簡単にですが紹介されています。また、さらに下にスクロールしていくと、「緊急連絡掲示板」・「メニュー」の次に、「令和2年度体育祭・文化祭代替行事」と「令和元年度文化祭『拍手喝采』」「令和元年度体育祭『体育祭なのに晴れねーじゃん～雨男は校長先生だけにしとけよ～』」の様子がまとめてあります。参考までに、のぞいてみてください。

ついでに、2・3年次の先輩たちにも、自分たちが取り組もうとしている「体育祭」や「文化祭」などの生徒企画行事が、そもそもどのようにして誕生して今に至るのかを、歴史を専門とする私の得意な学校の昔を掘り起こして（といってもまだ27年しか経っていませんが）、紹介したいと思います。

本校の創立10周年記念誌『野を讀心～宮城野高校の10年～』に、開校当時の学校行事の考え方について記載があります。初年度の学校の方針は「学校行事は、生徒の生活にめりはりをつけ、活力を増し、教科教育では得られないさまざまな体験ができるなどの教育的意義がある。同時に、学校への帰属意識を高め、生徒相互間の、あるいは生徒と職員間の一体感を確固としたものにする点でも有意義である。反面、行事が多くなりすぎ、その消化に追われるようになりがちなこと事実である。行事の精選はいつも大きな課題とされるが、なかなか効果のある削減に成功することはない。本校は新設校であることを生かし、行事の量を極力抑え、落ち着いた学校づくりを進めていくこととする。」とされました。

しかし実際には、開校初年度の年間行事予定表には最初から「遠足」があり、さらに「球技大会」も実施されています。実は、初年度の「球技大会」は、生徒からの企画ではなく、教員からの働きかけで開催に至ったそうです。「どうも、遠足以外の行事が設定されておらず、放課後の部活動もないなど、運動する機会を設定する必要感が漂っていた」との分析も10周年記念誌には記載されています。開催種目は、男女別のバスケ、男女混合のバレーとソフト、女子のみのキックベースで、リーグ戦でした。種目ごとのハチマキの色分けや試合日程、審判や計時などの運営は生徒が中心となって企画・準備したそうで、まさしくこれが今に続く生徒中心の企画・運営の流れの原点と言えるでしょう。

初年度に始まった「球技大会」は7回まで継続されました。その間、第2回には実行委員が編成され、第4回には前年度の2月頃に自主的行事ボランティアが発足して準備を進めることとなり、第5回には行事ボランティアが「球ボラ」と命名され、第6回には90名以上の「球ボラ」が集まり、第7回で初めて大会名がつき『青春ストライク～現実逃避の2日間～』と命名されています。

第8回からは、それまでの球技大会に、運動会的な玉入れや障害物競走などの種目を加えた、今現在と同様の総合的体育大会として開催されました。その背景には、球技が得意でない人も楽しめるものを加え、できるだけ多くの生徒が参加できるよう工夫しようとするねらいがあったようです。このような考え方は、今も同じように生徒企画行事を準備する段階での基本となっていることは、2・3年次の生徒の皆さんなら実感できるでしょう。ちなみに大会名は、第8回が『肉体疲労宴 青春野郎～あたいのクラスがNo.1～』、第9回が『ザ・青春争奪戦～俺泣いてないよ！汗が目にしみてんだー』、そして第10回が『天下一武道会～ダテにあの世は見てねえぜ～』と命名され、それぞれ年ごとに工夫がこらされ、内容も試行錯誤を重ねて実施されています。

10周年記念誌には、「球技大会」という題で、2回生の柴田彰さんのコメントが掲載されています。「今振り返ると、生徒会のない中、実行委員だけで学校行事を企画することができたのは、宮城野ならではの特色の一つである。企画・運営・実行までさせてもらったのは、今でも良い思い出である。このような宮城野高校ならではの特色を、今後の後輩達にも進んでいって欲しい。「自由」の中に「責任」があることを、私はここでたくさん学ぶことができたのだから。」

さあ、どうでしょう。本校の生徒企画体育的行事「体育祭」が、少しはイメージできましたか。1年次の皆さんは、ぜひ参考にしてください。ちなみに、昨年度の文化祭ボランティアには全体で185名が、体育祭ボランティアには全体で224名が登録して、それぞれ活動していました。今年の1年次の皆さんはどうでしょうか。さて、力を入れすぎて「体育祭」だけで紙面を使い切ってしまったので、「文化祭」については次回の「校長室だより」に掲載することにしたいと思います。（つづく）